

## 1. 企画情報部

### 1 機関評価委員会及び調査研究企画・評価委員会の開催

平成 27 年 7 月 28 日（火）に中期運営計画（H23～H27，五カ年計画）及び年度実施計画の取組状況や目標の達成度についての評価を受けるため、また、当研究所が行う調査研究事業についての評価を受けるため第 1 回委員会を開催した。また、平成 27 年度は現行の中期運営計画最終年度となることから、平成 28 年度から平成 32 年度までの第 2 期中期運営計画骨子についても併せて意見を聴取した。更に骨子に基づき作成した第 2 期中期運営計画（H28～H32）（案）について平成 28 年 1 月 7 日（木）に第 2 回機関評価委員会を開催し意見を聴取した。機関評価委員会は、地域保健・公衆衛生分野の専門家・有識者 5 名、内部委員 2 名及び共通委員 2 名、計 9 名により構成され、調査研究企画・評価委員会は、機関評価委員から共通委員を除いた計 7 名により構成される。

#### (1) 機関評価委員会

##### ア 評価対象

##### i) 県民に対して提供する業務

調査研究，試験検査，研修指導，公衆衛生情報等の収集・解析・提供

##### ii) 業務の質的向上，効率化のために実施する方策

全体マネジメント，他機関との連携，内部人材育成

##### イ 評価基準

評価については、達成度と難易度を考慮して判断を行う。難易度は H（高）・M（中）・L（低）の 3 段階、達成度は 4 段階（AA・A・B・C）の基準を用い、これらを勘案した上で、下表を参考に判断する。総合評価は、各委員からの評価レベルの差を反映させるため、4 段階評価の基準を細分化し、1 つでも上の評価があれば＋（プラス）、1 つでも下の評価があれば－（マイナス）と判定される。

難易度	達成度			
	AA	A	B	C
H	AA	AA	A	C
M	AA	A	B	C
L	A	B	C	C

##### ウ 平成 26 年度評価結果

総合評価：A<sup>+</sup> 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせて、質・量の両面において着実に取組みを実施していると評価された。

##### エ 第 2 期中期運営計画（H28～H32，五カ年計画）骨子（案）についての説明

#### (2) 調査研究企画・評価委員会

##### ア 評価対象研究課題

##### （ア）完了報告

平成 26 年度に完了した研究課題 2 題

(イ) 事前評価

平成 28 年度から実施予定の研究課題 3 題

(ウ) 中間評価

平成 24 年度及び平成 26 年度から開始した研究課題 2 題

(エ) 中止報告

平成 27 年度に継続困難なため中止した研究課題 1 題

イ 評価項目

(ア) 完了報告

①調査研究の妥当性 ②目標の達成度 ③成果の意義, 活用性 ④総合評価

(イ) 事前評価

①必要性 ②目的の適合性 ③計画内容等の妥当性 ④目標の達成及び活用の可能性 ⑤総合評価 ⑥計画実施の適否

(ウ) 中間評価

①必要性 ②進捗状況 ③計画の妥当性 ④目標の達成及び活用の可能性  
⑤総合評価 ⑥継続実施の評価

ウ 評価基準

上記①～⑤の評価項目については 5 段階評価, ⑥については 3 段階評価

エ 研究課題及び評価結果

(ア) 完了報告

- ・ 健康危機管理情報に関する調査研究  
総合評価：4.1
- ・ 医薬品類の安全性に関する調査研究（家庭用品）  
総合評価：3.9

(イ) 事前評価

- ・ VNTR を用いた結核菌分子疫学解析の実施とデータベースの作成  
総合評価：4.7
- ・ 野生鳥獣（イノシシ等）の病原体保有状況調査  
総合評価：4.3
- ・ 柑橘類等の残留農薬多成分一斉分析法に関する調査研究  
総合評価：4.2

(ウ) 中間評価

- ・ 二枚貝が保有する下痢症ウイルスの把握と疫学解析  
総合評価：4.4
- ・ カンピロバクター属菌の PFGE 法（パルスフィールドゲル電気泳動法）を用いた疫学に関する試験研究  
総合評価：4.4

(エ) 中止報告

- ・ サツマイモ及びその加工品中の抗酸化物質に関する研究  
中止の承認を受けた。

## 2 地方衛生研究所全国協議会の連絡調整

協議会の会員機関として、21 件の調査等(表 1)に協力するとともに、会員機関同士の情報交換を行った。

表 1 地方衛生研究所全国協議会の調査等一覧

調査名	実施機関等
疫学調査研究部門の設置状況について	岐阜県保健環境研究
分析機器に関するアンケートのお願いについて	熊本市環境総合センター
食品中の残留農薬等の試験検査に用いる GCMS(MS)の調査への協力のお願い	静岡県環境衛生科学研究所
結核菌 VNTR 解析の状況アンケート	愛媛県立衛生環境研究所
地方環境衛生研究所のあり方検討について	香川県環境保健研究センター
地方衛生研究所の機能強化について	茨城県衛生研究所
感染研からのインフルエンザアンケート調査協力依頼について	国立感染症研究所 (インフルエンザウイルス研究センター第一室)
健康被害危機管理事例(概要情報)の継続調査について	岡山県環境保健センター
「感染症法施行規則の一部を改正する省令(案)」に関する意見募集について	厚生労働省健康局結核感染症課
細菌感染症検査における外部精度管理の実施について	富山県衛生研究所
平成 27 年度外部精度管理(ウイルス検査)実施について	富山県衛生研究所
ICP 等の設置状況について	群馬県食品安全検査センター
ノロウイルス等の試験検査法の改定に関する意見照会	愛媛県立衛生環境研究所
信頼性確保(保証)部門について	愛媛県立衛生環境研究所
地方衛生研究所における薬剤耐性菌検査に関する調査へのご協力のお願い	愛媛県立衛生環境研究所
今後の衛生研究所のあり方についての検討等の状況について	大分県衛生環境研究センター
研究所庁舎の非常用電源設備の状況について	三重県保健環境研究所
地方衛生研究所の建設等に関するアンケートについて	愛媛県保健福祉部健康衛生局
覚せい剤等の鑑定業務について	栃木県保健環境センター
健康被害危機管理事例集一覧の項目再設定等について	岡山県環境保健センター

### 3 水道水測定分析外部精度管理

水道水の測定分析に従事する検査機関の検査精度の信頼性を確保するため、13 水質検査機関を対象に水道法水質基準項目の「アルミニウム及びその化合物」について「外部精度管理」を実施した。

参加機関数は 13 であったが、分析方法が検査方法告示と異なる 3 機関の結果は、参考値扱いとしたため 10 機関の測定値について評価を行った。10 機関の測定値(5 回測定の平均値)について、Grubbs の棄却検定を行ったところ測定値が 5%棄却限界を越えた機関はなかった。平均値は 0.0203 mg/L, 中央値は 0.0205mg/L, 濃度範囲は 0.0194 ~ 0.0210 mg/L であり、標準偏差は 0.0006 mg/L であった。各機関の Z スコアの範囲は-1.9 ~0.74, 中央値に対する各機関の誤差率の範囲は -5.7 ~2.2 %, 機関内変動係数は最大で 1.4 %, 機関間変動係数は 2.7 %であった。

Z スコアは、全ての機関において  $|Z| \leq 2$  となり良好であった。各機関の測定値の変動係数は、規定値(RSD% $\geq 10$ )をこえた機関はなく、各機関とも良好な精度であった。

### 4 ホームページの運営

研究所全体の概要や各部の業務、試験検査・調査研究の紹介及び最新情報を提供するためホームページを開設し平成 15 年 2 月から運営している。なお、平成 27 年 3 月に茨城県ホームページシステム変更に伴いリニューアルした。

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/eiken/index.html>

ホームページ管理運営委員会を 2 ヶ月に 1 回開催、感染症及び食品に関する公衆衛生情報を 22 件(表 2)掲載した。平成 27 年度の新たな取り組みとして、当所の検査に関するクイズを各部で作成し、夏と冬の 2 回掲載した。

また、健康プラザの展示スペースにパネルを掲示した。

[パネルテーマ]

4 月～ 7 月：茨城県衛生研究所、結核菌の疫学解析， Dengue 熱をご存知ですか？，健康食品のことを知っていますか!?

8 月～11 月：感染症情報センター，カンピロバクター属菌の PFGE 法を用いた疫学に関する試験研究事業，遺伝子検査ってなあに？，加工食品中の残留農薬について

12 月～3 月：近年増加しているレジオネラ症，食中毒の原因寄生虫，ウイルス分離培養検査ってなに？，食べものと放射性物質のはなし

表2 ホームページ掲載公衆衛生情報

年	月	掲載内容
2015年	4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</li> <li>・伝染性紅斑が流行しています！</li> </ul>
	5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デング熱をご存知ですか？</li> <li>・肉の生食による食中毒に注意しましょう</li> <li>・医薬品の品質保証について</li> <li>・デング熱について</li> <li>・夏季に増加する感染症に注意しましょう！～腸管出血性大腸菌感染症～</li> </ul>
	6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季に増加する感染症に注意しましょう！～手足口病・ヘルパンギーナ～</li> <li>・中東呼吸器症候群（MERS）について</li> </ul>
	8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本脳炎に注意しましょう</li> <li>・水道法に基づく病原微生物検査について</li> <li>・夏から秋にかけては毒キノコに注意してください</li> <li>・梅毒の報告が増加しています</li> </ul>
	10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流行性耳下腺炎の流行状況（2015年）</li> </ul>
2016年	11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザウイルスの検出状況について</li> <li>・ズーノーシス（動物由来感染症）について</li> <li>・「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律施行規則」の一部改正について</li> </ul>
	12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染性胃腸炎</li> </ul>
	1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザに関する情報</li> </ul>
	2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウイルス分離培養検査ってなに？</li> <li>・漬物の収去検査について</li> <li>・健康食品のこと知っていますか！？</li> <li>・海外で「ジカウイルス感染症（ジカ熱）」が流行しています</li> </ul>

## 5 感染症情報センター

感染症発生動向調査における週報・月報等の報告還元業務の他、感染症情報収集システム（学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む））の管理並びに情報提供を衛生研究所ホームページ等で行っている。また、9月に発生した「平成27年9月関東・東北豪雨」の際には、避難所サーベイランスを実施し、水害時の衛生対策に関する情報の発信を行った。

県内の医療機関から報告された二類～五類感染症（全数把握疾患・定点把握疾患）の報告数を表3および表4に示す。

また、年度末に開催された「平成27年度茨城県感染症対策委員会」及び「平成27年度茨城県麻しん風しん対策会議」の事務局として概要の説明を行った。

表 3 平成 27 年 全数把握疾患

分類	疾病名	報告数	分類	疾病名	報告数
二類	結核	509	五類	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症	7
三類	細菌性赤痢	6		急性脳炎	26
	腸管出血性大腸菌感染症	59		クロイツフェルト ・ヤコブ病	3
	パラチフス	1		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	6
四類	E 型肝炎	6		後天性免疫不全症候群	19
	A 型肝炎	3		侵襲性インフルエンザ菌 感染症	5
	チクングニア熱	2		侵襲性肺炎球菌感染症	23
	つつが虫病	5		水痘(入院に限る)	3
	デング熱	3		梅毒	43
	マラリア	1		播種性 クリプトコックス症	1
	レジオネラ症	63		破傷風	7
五類	アメーバ赤痢	17		風しん	3
	急性ウイルス性肝炎 (E 型及び A 型を除く)	3		薬剤耐性アシネト バクター感染症	3

表4 平成27年 定点把握疾患

定点分類	疾病名	報告数	定点分類	疾病名	報告数
小児科	RSウイルス感染症	2,022 (26.96)	眼科	急性出血性結膜炎	14 (0.82)
	咽頭結膜熱	1,390 (18.53)		流行性角結膜炎	915 (53.82)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8,628 (115.04)	基幹	細菌性髄膜炎	3 (0.23)
	感染性胃腸炎	22,062 (294.16)		無菌性髄膜炎	7 (0.54)
	水痘	1,849 (24.65)	マイコプラズマ肺炎		170 (13.08)
	手足口病	6,305 (84.07)		クラミジア肺炎	1 (0.08)
	伝染性紅斑	2,676 (35.68)	インフル エンザ	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルス であるものに限る。)	42 (3.23)
	突発性発しん	1,380 (18.40)		インフルエンザ (高病原性鳥インフル エンザを除く)	22,905 (190.88)
	百日咳	45 (0.60)			
	ヘルパンギーナ	1,651 (22.01)			
	流行性耳下腺炎	2,458 (32.77)			

( ) は定点当たりの報告数

## 2. 細菌部

### 1 試験検査の概況

平成 27 年度試験検査実施状況を表 1 及び表 2 に示した。

#### (1) 感染症発生動向調査事業

##### ア 細菌の分離同定検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により三類感染症として届出のあった患者の接触者検診，治療後の患者の病原体を保有していないことの確認検査や保健所等から送付された菌株及び三類以外の感染症について試験検査を実施した。

- ・腸管出血性大腸菌（EHEC）検査を 490 検体実施し，検出した血清型は，O157:37 株，O26:3 株，O103:1 株，の計 41 株であった。（実数）
- ・赤痢菌は 74 検体の試験検査を実施し，3 検体から *S.sonnei* を検出した。
- ・パラチフス A 菌は 5 検体について分離培養試験を実施したが，検出されなかった。
- ・結核患者管理健診・接触者健康診断で採取された 29 検体の喀痰について結核菌検査を行ったが，塗抹・培養検査とも陰性であった。
- ・レジオネラ属菌検査を 10 検体の喀痰で実施し，4 検体から *Legionella pneumophilla*SG1 を分離し，2 検体から *Legionella pneumophilla* 遺伝子を検出した。
- ・レプトスピラ症 4 検体，ライム病ボレリア 3 検体の遺伝子検査・血清抗体価検査，侵襲性肺炎球菌 3 検体の血清型別検査を国立感染症研究所に依頼した。

##### イ 細菌の分子疫学検査

感染症の集団発生時や広域事例の探知において，感染経路の特定，共通の感染源解明のために分子疫学検査を行った。

- ・結核菌 85 株については VNTR 法を用いて解析し，多剤耐性アシネトバクター菌株については PFGE 法による分子疫学解析を行った。
- ・腸管出血性大腸菌 O157 の 45 株は，PFGE 法・IS-printing 法・MLVA 法を行った。

##### ウ 細菌感染症検査に係る外部精度管理

次の外部精度管理に参加し（全て正しく判定でき）結果は良好であった。

- ・細菌感染症検査における外部精度管理の実施  
（三類感染症検査に係る「コレラ菌」の同定）
- ・平成 27 年度レジオネラ属菌検査外部精度管理
- ・結核菌遺伝子型別外部精度管理

#### (2) 食品衛生関連事業

##### ア 食中毒検査

食中毒事例（疑い含む）が 71 事例発生し，原因物質究明のための細菌検査を行った。

搬入された便・吐物 467 検体，拭き取り 326 検体，食材 122 検体，計 915 検体について主に食中毒細菌 11 項目の検査を行った。寄生虫の試験検査については顕微鏡検査・遺伝子検査等を行った。真菌については，形態観察等で属を決定した。

その結果，サルモネラ属菌 2 株，カンピロバクター属菌 42 株（うち食品等 7 株），

黄色ブドウ球菌 21 株(ふきとり 4 株, 食品 7 株, 便 10 株)を検出した。また, 食品 1 検体からクドア・セプトエンピクターを検出した。

イ 食品衛生法に基づく収去食品検査

茨城県食品衛生監視指導計画に基づき, 保健所が行う監視指導に伴い搬入された収去食品等の試験検査を行った。

(ア) 食肉の試験検査

カンピロバクター属菌, サルモネラ属菌, 腸管出血性大腸菌(O26, O103, O111, O121, O145 及び O157) 及び腸内細菌科菌群により汚染された食肉及びその加工品等による食中毒を防止するため食肉 121 検体の試験検査を行った。その結果, カンピロバクター属菌が 12 株, サルモネラ属菌が 18 株検出された。

(イ) 農産物漬物の試験検査

県内に流通する農産物漬物(原則として浅漬)の安全性を確保するため, 漬物 25 検体について大腸菌, 腸炎ビブリオの試験検査を行い, 全て陰性であった。

(ウ) 生食用鮮魚介類の試験検査

腸炎ビブリオにより汚染された生食用鮮魚介類による食中毒を防止するため生食用鮮魚介類 24 検体について試験検査を行い腸炎ビブリオは陰性であった。

(エ) 輸入食品の試験検査

県内に流通する輸入食品の安全を確保するため輸入食品 111 検体について, 一般細菌数 53 検体, E.coli 47 検体, 大腸菌群 35 検体, 黄色ブドウ球菌 8 検体, サルモネラ属菌 8 検体, クロストリジウム属菌数 7 検体, 緑膿菌 5 検体, 腸球菌 5 検体, 大腸菌群数 23 検体, 芽胞数 3 検体, 恒温試験 2 検体, 細菌試験 2 検体の試験検査を行った。規格基準のあるものは全て基準値内であった。

(オ) 夏期一斉取締りに伴う収去検査

夏期に多発する食中毒等の食品による事故の防止を図るため, 収去食品 150 検体(弁当そうざい 134 検体, 洋生菓子 16 検体)の試験検査を実施した。検査は一般細菌数, 大腸菌, 大腸菌群, 黄色ブドウ球菌について行った。その結果, 一般細菌数検査で 4 検体が基準値を上回り, 大腸菌群 3 検体, 黄色ブドウ球菌 1 検体が陽性となった。

(カ) 年末一斉取締りに伴う収去検査

食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が最も発生する冬期における食中毒の発生防止を図るため, 収去食品等 145 検体を検査した。収去食品等の内訳は, 弁当及びそうざい 62 検体, 洋生菓子 55 検体, 漬物(浅漬)3 検体, 生めん 4 検体, ゆでめん 6 検体, アイスクリーム類 7 検体, ナチュラルチーズ 2 検体, 施設拭き取り 6 検体であった。それぞれの食品に対応する検査項目を実施した結果, 洋生菓子 9 検体について大腸菌群が陽性となった。

(キ) 認定小規模食鳥処理場衛生状況調査

認定小規模食鳥処理場の衛生状況を把握するため、県内 14 施設において採取した拭き取り等 151 検体についてサルモネラ属菌、カンピロバクター属菌の定性試験を行った。その結果、カンピロバクター属菌が 41 検体から、また、サルモネラ属菌が 1 検体から検出された。

(ク) 県内産ヒラメの寄生虫（クドア）汚染状況調査

県内産ヒラメに寄生したクドア・セプテンpunkタータを原因とする食中毒を防止するために実施した。県内産ヒラメ（漁獲水域が県内沖のもの）20 尾を検査し、クドア・セプテンpunkタータは検出されなかった。

(ク) 食品衛生外部精度管理調査

一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所の平成 27 年度食品衛生外部精度管理調査に参加し一般細菌数測定検査、大腸菌群検査、腸内細菌科菌群検査、黄色ブドウ球菌検査、サルモネラ属菌検査を実施した。その結果は、（全て正しく判定でき）良好であった。

(3) 水道水質調査事業

病原性微生物等実態調査実施要領に基づき、原虫（クリプトスポリジウム・ジアルジア）等の存在状況の実態を把握するため、汚染が疑われる県内 5 カ所の 5 浄水場について原水及び浄水の検査を行った。その結果、クリプトスポリジウム、ジアルジア、大腸菌、嫌気性芽胞菌は不検出で、残留塩素と浄水濁度は基準内（原水濁度は基準なし）であった。詳細については、表 2 のとおりである。

(4) 環境衛生に係る試験検査

レジオネラ症の患者発生時において入浴施設の関連が疑われる場合に、当該施設の浴槽水等のレジオネラ属菌の試験検査を行った。10 施設の浴槽水等 54 検体中、培養法で 3 検体からレジオネラ属菌が分離され、レジオネラ属菌遺伝子が 2 検体から検出された。

(5) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査

医療機器の品質を確保するため、注射針 2 検体について無菌検査を行い、2 検体とも陰性であった。

表 1 平成 27 年度 試験検査実施状況

項目	検体数	検出病原体等 ( ) は検出数	
(1) 感染症発生動向調査事業	腸管出血性大腸菌	490 O157 (37) ,O26 (3) , O103 (1)	
	赤痢菌	74 <i>S.sonnei</i> (3)	
	パラチフス A 菌	5	
	結核菌	29	
	細菌の分離同定検査	レジオネラ属菌	10 <i>L. pneumophilla</i> SG1 (4) <i>L. pneumophilla</i> 遺伝子 (2)
		百日咳菌	3
		レプトスピラ症	4
		ライム病ボレリア	3
		侵襲性肺炎球菌	3 血清型 15C(1),22F(1), 24F(1)
	細菌の分子疫学検査	結核菌	85
多剤耐性アシネトバクター菌		3	
腸管出血性大腸菌 O157		45	
(2) 食品衛生関連事業	食中毒 (疑い含む) 検査	915 サルモネラ属菌 (2) , カンピロバクター属菌 (42) 黄色ブドウ球菌 (21) グレア・セプトンバクター (1)	
	食肉の試験検査	121 カンピロバクター属菌 (12) サルモネラ属菌 (18)	
	農産物漬物の試験検査	25	
	生食用鮮魚介類の試験検査	24	
	輸入食品の試験検査	111	
	夏期一斉取締りに伴う収去検査	150 一般細菌数 (4) ,大腸菌群 (3) , 黄色ブドウ球菌 (1)	
	年末一斉取締りに伴う収去検査	145 大腸菌群 (9)	
	認定小規模食鳥処理場衛生状況調 査	151 カンピロバクター属菌 (41) サルモネラ属菌(1)	
	県内産ヒラメの寄生虫(グレア)汚染状況調 査	20	
	食品衛生外部精度管理調査	9	
	その他	水道水質調査 (原水・浄水)	10
		環境衛生関連 (浴槽水等)	54 レジオネラ属菌 (3) レジオネラ属菌遺伝子(2)
		医療機器無菌検査	2
合計	2491		

表 2 病原性微生物等実態調査一覧

検査項目	件 数		計
	水道原水	浄水	
気温	5	5	10
水温	5	5	10
pH	5	5	10
濁度	5	5	10
残留塩素濃度	-	5	5
大腸菌	5	-	5
嫌気性芽胞菌	5	-	5
クリプトスポリジウム	5	5	10
ジアルジア	5	5	10
合 計	40	35	75

  

調査地点	岩船浄水場	城里町
	赤沢浄水場	城里町
	西金浄水場	太子町
	芦野倉浄水場	太子町
	石寺浄水場	笠間市

## 2 調査研究

- (1) カンピロバクター属菌の PFGE 法を用いた疫学に関する調査研究事業 [特電\*]  
 県内で分離されたカンピロバクター属菌について、PFGE 法を用いた分子疫学解析を行い、汚染源究明に向けた科学的根拠を提供することを目的に行っている。平成 27 年度は、平成 24 年度から 26 年度に収集した菌 449 株を用いて作成したデータベースから県内で分離されるカンピロバクター属菌の特徴を把握することができた。また、平成 27 年度から PFGE 解析結果がデータベースの遺伝子型と一致した場合は、検査依頼のあった保健所へ迅速に情報提供する試みを 1 事例実施することができた。
- (2) VNTR 法を用いた結核菌分子疫学分類確立のための調査研究  
 結核菌の分子疫学解析の一つである VNTR 法を用いて保健所から搬入された結核菌の遺伝子情報を解析し、菌の疫学情報や伝播状況などの近縁関係を調査する。それにより感染源の特定や疫学的な関連把握が可能になる。  
 平成 27 年度は、有用性が確認できた 24 領域 VNTR 法を用いて、平成 24 年度から平成 27 年度搬入株計 201 株について解析を実施し、データベースを作成した。

\*特別電源所在県科学技術振興事業補助金

### 3. ウイルス部

#### 1 試験検査の概況

##### (1) 感染症発生動向調査事業等

平成 27 年度感染症発生動向調査事業に係る検査件数を表 1 に示した。

##### ア インフルエンザ

病原体定点医療機関から提出のあった 68 検体，集団発生 94 検体の合計 162 検体について遺伝子検査及び分離・同定試験を実施した。その結果，AH3 亜型が 19 件，B 型が 69 件，AH1pdm09 が 60 件検出された。

##### イ 感染性胃腸炎

下痢症ウイルスによる集団感染等が疑われた 65 事例 335 検体について，ノロウイルス，サポウイルス，A 群・C 群ロタウイルス，アデノウイルス，アストロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果，ノロウイルスが 247 件 (G1: 36 件 / G2: 211 件)，サポウイルスが 23 件，A 群ロタウイルスが 31 件，アデノウイルスが 5 件，アストロウイルスが 1 件検出された。

##### ウ デング熱・チクングニア熱

海外で感染したと思われる 8 名の検査を実施したところ，デングウイルス 1 型が 2 件，デングウイルス 2 型が 1 件，デングウイルス 3 型が 1 件，チクングニアウイルスが 2 件検出された。

##### エ 麻しん・風しん

麻しん及び風しん疑い患者 13 名の遺伝子検査及び分離培養検査を行ったところ，麻しんウイルスは検出されなかったが風しんウイルスが 1 件検出された。麻しん及び風しんウイルスが不検出の検体について，ヒトパルボウイルス B19，5 歳未満の小児についてはさらにヘルペスウイルス 6 型及びヘルペスウイルス 7 型を実施した結果，ヘルペスウイルス 6 型が 3 件，ヒトパルボウイルス B19 が 2 件検出された。

##### オ 急性脳炎

急性脳炎・脳症（疑い例を含む）の患者 70 名の血清，髄液，咽頭拭い液，糞便等を用いて，遺伝子検査及び分離・同定試験を実施した。その結果，ヘルペスウイルス 6 型が 26 件，ヘルペスウイルス 7 型が 10 件，EB ウイルスが 4 件，サイトメガロウイルスが 5 件，アデノウイルスが 6 件，ムンプスウイルスが 3 件，A 群ロタウイルスが 1 件，RS ウイルスが 1 件，インフルエンザ AH1pdm09 型が 2 件，インフルエンザ B 型が 2 件，単純ヘルペスウイルスが 2 件，水痘・帯状疱疹ウイルスが 1 件，エンテロウイルス属が 8 件検出された。

##### カ 無菌性髄膜炎，手足口病

無菌性髄膜炎 37 検体，手足口病 14 検体について遺伝子検査及び分離・同定試験を実施した。無菌性髄膜炎からエンテロウイルス属 16 件，ムンプスウイルス 5 件等が検出された。ムンプスウイルスは，遺伝子解析の結果 2 件はワクチン由来であることがわかった。手足口病は，コクサッキーウイルス A6 型が 3 件，コクサッキーウイルス A9 型が 9 件検出された。

キ 呼吸器感染症（集団発生事例）

7月に発生した高齢者施設の集団感染事例からパラインフルエンザウイルス3型が検出された。また、同施設において12月にも呼吸器感染症の集団感染が発生しRSウイルスB型が検出された。

表 1 平成 27 年度 感染症発生動向調査事業に係る検査件数

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子検査	分離培養
四類感染症 (全数届出疾患)	E 型肝炎	1	E 型肝炎ウイルス	0	
	つつが虫病	3	<i>Orientia tsutsugamushi</i> Karp 型	1	
	チクングニア熱 デング熱	8	チクングニアウイルス	2	
			デングウイルス 1 型	2	
			デングウイルス 2 型	1	
デングウイルス 3 型	1				
五類感染症 (全数届出疾患)	急性脳炎・脳症	70	単純ヘルペスウイルス 1 型	1	
			単純ヘルペスウイルス 2 型	1	
			水痘・帯状疱疹ウイルス	1	
			EB ウイルス	4	
			サイトメガロウイルス	5	
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	26	
			ヒトヘルペスウイルス 7 型	10	
			アデノウイルス 2 型	1	
			アデノウイルス	5	
			A 群ロタウイルス	1	
			コクサッキーウイルス A2 型	1	
			コクサッキーウイルス A9 型	3	
			コクサッキーウイルス A14 型	1	
			エンテロウイルス属 (型別不能)	3	
			RS ウイルス A	1	
			インフルエンザ AH1pdm09	2	
			インフルエンザ B (Yamagata 系統)	1	
	インフルエンザ B (Victoria 系統)	1			
	ムンプスウイルス	3			
	風しん	6	ヒトヘルペスウイルス 6 型	2	
麻しん	7	風しんウイルス	1	1	
		ヒトヘルペスウイルス 6 型	1		
		パルボウイルス B19	2		

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子検査	分離培養
五類感染症 (定点把握疾患)	咽頭結膜熱	1	アデノウイルス 3 型	1	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルス を含む)	8	ノロウイルス GII	1	/
			サポウイルス	1	
			A 群ロタウイルス	3	
	手足口病	14	コクサッキーウイルス A6 型	3	0
			コクサッキーウイルス A9 型	9	9
			エンテロウイルス属 (型別不能)	1	0
	流行性耳下腺炎	24	ムンプスウイルス	19	0
	インフルエンザ	68	AH1pdm09	42	41
			AH3	3	3
			B (Yamagata 系統)	10	9
			B (Victoria 系統)	12	12
	流行性角結膜炎	4	アデノウイルス 54 型	4	4
	無菌性髄膜炎	37	エコーウイルス 3 型	3	3
			エコーウイルス 9 型	3	3
			コクサッキーウイルス A9 型	2	1
			コクサッキーウイルス A16 型	2	0
コクサッキーウイルス B2 型			2	2	
コクサッキーウイルス B5 型			4	4	
ムンプスウイルス			5	2	
EB ウイルス			1	/	
ヒトヘルペスウイルス 6 型			1	/	
ライノウイルス			2	0	
ヒトメタニューモウイルス	1	0			

感染症の種類	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子検査	分離培養
その他	その他（呼吸器感染症等）	42	RS ウイルス A	4	
			RS ウイルス B	2	
			ライノウイルス	6	
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	2	
			エコーウイルス 3 型	1	
			コクサッキーウイルス A6 型	1	
			エンテロウイルス D68 型	1	
			エンテロウイルス属 (型別不能)	1	
			インフルエンザ AH1pdm09	5	
			ヒトメタニューモウイルス	1	
			パルボウイルス B19	10	
			合計(人)		
集団感染事例	インフルエンザ	94	AH1pdm09	18	14
			AH3	16	11
			B(山形系統)	9	5
			B(ビクトリア系統)	38	28
	感染性胃腸炎	335	ノロウイルス(G1)	36	
			ノロウイルス(G2)	211	
			サポウイルス	23	
			A 群ロタウイルス	31	
			アデノウイルス 5 型	1	
			アデノウイルス 56 型	1	
			アデノウイルス	3	
			アストロウイルス	1	
	呼吸器感染症	14	パラインフルエンザウイルス 3 型	7	
			RS ウイルス B	5	
食中毒・有症苦情	下痢症ウイルス	471	ノロウイルス(G1)	30	
			ノロウイルス(G2)	165	
			サポウイルス	6	
			アデノウイルス 5 型	1	
			アデノウイルス 41 型	1	
			アストロウイルス	3	
合計(人)		914		606	

(2) 性感染症対策に関する試験検査

水戸・土浦保健所で実施しているエイズスクリーニング検査（簡易迅速法）について、職員を派遣し検査を実施した。867件実施し、陽性数は3件で陽性率は0.34%であった。

表2 エイズスクリーニング検査数

	水戸保健所	土浦保健所	合計
検査数	386	481	867
陽性数	0	3	3
陰性数	386	478	864

(3) 食中毒対策に関する試験検査

ア 発症者及び従業員等の検査

食中毒等が疑われた66事例471検体について、ノロウイルス、サポウイルス、A群・C群ロタウイルス、アデノウイルス、アストロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、ノロウイルスが195件（G1が30件、G2が165件）、サポウイルスが6件、アデノウイルスが2件、アストロウイルスが3件検出された。

イ 食品検査

食中毒の原因食品として疑われた食品21検体（生ガキ6検体を含む）と拭き取り62検体について、ノロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果、食品から1検体、拭き取り検体から6検体ノロウイルスG2が検出された。

ウ 二枚貝のノロウイルス検査

茨城県産の二枚貝（岩カキ等）30ロット（1ロット10個）のノロウイルス検査を実施したところ、全て不検出であった。

(4) 職員の健康管理事業に関する検査

茨城県の「保健所及び衛生研究所に勤務する職員のB型肝炎検査及びワクチン接種実施要領」に基づき、保健所等職員106名について、B型肝炎の血清学的検査（HBs抗原及びHBs抗体検査）を実施した。

2 調査研究

(1) 感染症流行予測調査事業

ア 日本脳炎感染源調査

ブタが日本脳炎ウイルスの増幅動物となっていることから、ブタ血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体価を測定することでその浸淫度を調査し、日本脳炎の流行を把握するために実施した。

平成27年7月から9月にかけて（株）茨城県中央食肉公社に集荷された生後6ヶ月の県内産のブタから8回（1回あたり10頭）にわたって採血した。合計80検体について、血清中の日本脳炎ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体（HI抗体）価を測定した。

その結果、第5回採血（8月24日）、第6回採血（9月7日）、第7回採血（9月14

日), 第 8 回採血 (9 月 28 日) に実施した調査で, HI 抗体陽性となった。第 5 回採血では, 1 検体で HI 抗体が陽性 (1:40) となり, 2ME 感受性抗体は検出されなかった。第 6 回採血では, 8 検体で HI 抗体が陽性 (1:160 が 1 検体, 1:320 が 4 検体, 1:640 以上が 3 検体) となり, 2ME 感受性抗体陽性率は 63% であった。第 7 回採血では, 9 検体で HI 抗体が陽性 (1:40, 1:80, 1:160 でそれぞれ 1 検体ずつ, 1:320 が 2 検体, 1:640 以上が 4 検体) となり, 2ME 感受性抗体陽性率は 56% であった。第 8 回採血では, 10 検体で HI 抗体が陽性 (1:80 が 1 検体, 1:160 が 2 検体, 1:320 が 1 検体, 1:640 以上が 6 検体) となり, 2ME 感受性抗体陽性率は 10% であった。

第 5 回から第 8 回の計 4 回で HI 抗体が陽性となり, 日本脳炎ウイルスが県内に浸淫していることが示唆された。また, 第 6 回から第 8 回は同一飼育地 (市町村) において調査しており, IgM 抗体から IgG 抗体への移行が経時的にみられた。

#### イ インフルエンザ感受性調査

インフルエンザウイルスに対する血清中の抗体を測定することでヒトの免疫状況を把握し, 次シーズンの流行予測に役立てるために実施した。

平成 27 年 7 月~10 月に年齢群ごとに採血した 215 名の血清について 4 種の HA 抗原を用いてインフルエンザウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体 (HI 抗体) 検査を実施した。

感染防御の指標とされる抗体価は 1:40 以上とされており, その抗体保有状況をみると, A/カリフォルニア/7/2009(H1N1)pdm09 に対する平均抗体保有率は 42.8% であり, 各年齢群における抗体保有率は 0~4 歳で 11.9%, 5~9 歳で 45.5%, 10~14 歳で 40.0%, 15~19 歳で 84.6%, 20~29 歳で 85.0%, 30~39 歳で 29.2%, 40~49 歳で 31.8%, 50~59 歳で 38.1%, 60 歳以上で 25.0% であった。

A / スイス / 9715293 / 2013 (H3N2) に対する平均抗体保有率は 19.1% であった。各年齢群における抗体保有率は 0~4 歳で 9.5%, 5~9 歳で 45.5%, 10~14 歳で 40.0%, 15~19 歳で 15.4%, 20~29 歳で 25.0%, 30~39 歳で 4.2%, 40~49 歳で 22.7%, 50~59 歳で 9.5%, 60 歳以上で 6.3% であった。

B / プーケット / 3073 / 2013 (山形系統) に対する平均抗体保有率は 13.0% であった。各年齢群における抗体保有率は 0~4 歳で 0%, 5~9 歳で 9.1%, 10~14 歳で 0%, 15~19 歳で 7.7%, 20~29 歳で 42.5%, 30~39 歳で 16.7%, 40~49 歳で 9.1%, 50~59 歳で 4.8%, 60 歳以上で 6.3% であった。

B / テキサス / 2 / 2013 (ビクトリア系統) に対する平均抗体保有率は 2.8% であった。各年齢群における抗体保有率は 0~4 歳で 0%, 5~9 歳で 4.5%, 10~14 歳で 0%, 15~19 歳で 7.7%, 20~29 歳で 0%, 30~39 歳で 4.2%, 40~49 歳で 9.1%, 50~59 歳で 4.8%, 60 歳以上で 0% であった。

なお, この調査は, 水戸市内の 7 医療機関の協力を得て実施した。

#### ウ 麻しん・風しん感受性調査

麻しんウイルスおよび風しんウイルスに対するヒト血清中の抗体保有状況を調査し, 麻しんおよび風しんワクチン接種効果を調査するとともに, 今後の流行予測を行うことを目的として実施した。

平成 27 年 7 月から 10 月にかけて各年齢群別に採取された 215 名の血清について, 「セ

ロディア・麻しん」(富士レビオ)を用い麻しん PA 抗体価および赤血球凝集抑制抗体 (HI 抗体)を用いて風しん抗体価を測定した。麻しんについては、抗体陰性者 (<16) は 10 名で全体の 4.7%であった。感染防御レベルは 1 : 128 とされているが、抗体陽性者のうち 1 : 128 未満の者は 13 名で全体の 6.1%を占めていた。風しんについては、抗体陰性者 (<8) は 13 名で全体の 6.1%であった。感染防御レベルは 1 : 32 とされているが、抗体陽性者のうち 1 : 32 未満の者は 17 名で全体の 7.9%を占めていた。

なお、この調査は、水戸市内の 7 医療機関の協力を得て実施した。

## (2) イノシシの E 型肝炎ウイルス保有状況調査

県内の野生イノシシが保有する E 型肝炎ウイルスの実態を明らかにするとともに、イノシシ肉を安全に取り扱う (解体、喫食等) ための県民への注意喚起の基礎データを得ることを目的として実施した。実施状況は表 3 のとおりである。

平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月にかけて県内 3 地域において捕獲された 89 頭のイノシシから血清、肝臓、糞便を採取して E 型肝炎のウイルス遺伝子検査、抗体検査を実施した。(抗体検査は、国立感染症研究所が実施した。) 遺伝子検査では合計 16 頭 (17.9%) が陽性となり、抗体検査は 47 頭 (52.8%) が陽性となった。3 地域の陽性率には地域差が見られた。

表 3 県内における野生イノシシの E 型肝炎ウイルス保有状況

市名	遺伝子検査			抗体検査		
	検体数 (頭)	陽性数 (頭)	陽性率 (%)	検体数 (頭)	陽性数 (頭)	陽性率 (%)
A 市	28	16	57.1	28	21	75.0
B 市	20	0	0	20	3	15.0
C 市	41	0	0	41	23	56.1
合計	89	16	17.9	89	47	52.8

#### 4. 理化学部

##### 1 食品試験検査の概況

平成 27 年度食品試験検査実施状況は、表 1 のとおりである。

表 1 平成 27 年度食品試験検査実施状況

項目	検体数	項目数	件数
(1) 輸入加工食品残留農薬試験検査(有機リン系農薬)	50	42	2,100
(2) 遺伝子組換え食品試験検査	10	1	10
(3) 県外産農産物残留農薬試験検査	20	107~135	2,452
(4) 輸入野菜残留農薬試験検査	50	100~132	5,857
(5) 加工食品中アレルギー物質試験検査	48	各 1	48
(6) 漬物の添加物試験検査	25	1	25
(7) 輸入食品試験検査			
ア 柑橘類の残留農薬	25	11	275
イ 乾燥果実・煮豆、ワイン、菓子の食品添加物	85	各 1	85
ウ 農産物漬物原材料の食品添加物	25	1	25
エ 食品等輸入者取扱い食品検査			
ソルビン酸	12	1	12
指定外酸化防止剤(TBHQ)	12	1	12
(8) 加工食品の放射性物質試験検査	177	2	354
(9) イノシシ肉の放射性物質試験検査	9	2	18
(10) 食中毒・苦情食品・違反食品等の行政検査	1	5	5
合計	549		11,278

##### (1) 輸入加工食品残留農薬試験検査(有機リン系農薬)

平成 27 年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成 27 年度輸入加工食品の残留農薬試験検査実施要領に沿って、輸入加工食品 50 検体について 42 項目の有機リン系農薬の検査を実施したが、全て不検出であった。

[測定項目]

EPN, クロロピリホス, シアノホス, ジクロロボス, ダイアジノン, チオメトン, フェニトロチオン, ブタミホス, マラチオン, メタミドホス, 他 32 成分

##### (2) 遺伝子組換え食品試験検査

平成 27 年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成 27 年度遺伝子組換え食品の試験検査実施要領に沿って、大豆 10 検体(ラウンドアップレディ大豆)について遺伝子組換え体の含有検査を実施し、全て検出下限値(0.3%)未満であった。

##### (3) 県外産農産物残留農薬試験検査

平成 27 年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成 27 年度県外産農産物の試験検査実

施要領に沿って、県外で生産された野菜 20 検体（ダイコン 6 検体、ニンジン 5 検体、キャベツ 4 検体、レタス 3 検体、キュウリ、トマト各 1 検体）について農薬 107～135 項目の検査を実施した。結果は、全て不検出であった。

[測定項目]

アザコナゾール、イサゾホス、イソカルボホス、イソプロチオラン、ウニコナゾール P、エチオン、エトリンホス、クレソキシムメチル、クロルタルジメチル、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、クロルフェンソン、クロルフェンビンホス、シアナジン、シアノフェンホス、他

(4) 輸入野菜残留農薬試験検査

平成 27 年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成 27 年度輸入野菜の試験検査実施要領に沿って、輸入野菜を 2 回に分けて、各 25 検体、計 50 検体について農薬 100～132 項目の検査を実施した。

検査を行った野菜は、第 1 回は、アスパラガス 5 検体、ブロッコリー 4 検体、パプリカ、トマト、タケノコ各 3 検体、かぼちゃ、ほうれん草、未成熟インゲン各 2 検体、ニンジン 1 検体、第 2 回は、かぼちゃ、タケノコ各 5 検体、アスパラガス、ニンジン、パプリカ各 3 検体、ブロッコリー、ほうれん草各 2 検体、トマト、未成熟インゲン各 1 検体である。

結果は、以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが、全て基準値以下であった。

(第 1 回の結果)

- ・パプリカの 1 検体からピリダベン、他の 1 検体からインドキサカルブが検出された。
- ・未成熟インゲン 1 検体からイミダクロプリドが検出された。

(第 2 回の結果)

- ・かぼちゃの 2 検体からイミダクロプリド、他の 1 検体からイミダクロプリド及びミクロブタニルが検出された。
- ・パプリカの 1 検体からクレソキシムメチル、クロチアニジン及びチアメトキサム、他の 1 検体からクレソキシムメチル、ピリダベン及びクロチアニジンが検出された。
- ・ほうれん草の 2 検体からイミダクロプリドが検出された。

[測定項目]

アトラジン、イサゾホス、イソプロチオラン、ウニコナゾール P、エチオン、エデイフェンホス、エトリンホス、クレソキシムメチル、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、クロルフェンソン、サリチオン、シアノフェンホス、ジクロフェンチオン、ジクロブトラゾール、チオベンカルブ、他

(5) 加工食品中のアレルギー物質試験検査

平成 27 年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成 27 年度アレルギー物質を含む食品の試験検査実施要領に沿って、加工食品 48 検体について、食品衛生法上表示義務のある特定原材料（卵 24 検体、乳 24 検体）の検査を実施したところ、当該成分が検出されものはなかった。

(6) 漬物の添加物試験検査

平成 27 年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成 27 年度農産物漬物の試験検査実施要領に沿って、漬物 25 検体について食品添加物(ソルビン酸)の検査を実施したところ、全て基準値以下であった。

(7) 輸入食品試験検査

平成 27 年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成 27 年度輸入食品の試験検査実施要領に沿って輸入食品の検査を実施した。

ア 柑橘類の残留農薬

柑橘類 25 検体（グレープフルーツ 10, オレンジ 9, レモン 6）について有機リン系農薬 11 項目の検査を実施した。結果は、以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが、全て基準値以下であった。

- ・グレープフルーツの 4 検体からクロルピリホスが検出された。
- ・オレンジの 5 検体からクロルピリホスが検出された。
- ・レモンの 4 検体からクロルピリホスが検出された。

[測定項目]

エトリムホス, キナルホス, クロルピリホス, トルクロホスメチル, パラチオンメチル, ピラクロホス, フェニトロチオン, プロチオホス, マラチオン, ピリミホスメチル, クロルフェンビンホス

イ 乾燥果実・煮豆, ワイン, 菓子の食品添加物

輸入食品 35 検体（乾燥果実 9, 煮豆 3, ワイン 22, かんぴょう 1）について二酸化硫黄（亜硫酸塩）の検査を実施したところ、全て基準値以下であった。

輸入食品 50 検体（菓子 50）について、TBHQ\*の検査を行ったところ、全て不検出であった。

\*TBHQ : tert-ブチルヒドロキノン（指定外酸化防止剤）

ウ 農産物漬物原材料の食品添加物

輸入農産物漬物原材料（漬物を含む。）25 検体についてソルビン酸の検査を実施したところ、全て基準値以下であった。

エ 食品等輸入者取扱い食品の食品添加物

輸入食品 12 検体（ワイン 9, 漬物 3）についてソルビン酸の検査を実施したところ、全て基準値以下であった。

輸入食品 12 検体（菓子 12）について、TBHQ の検査を行ったところ、全て不検出であった。

(8) 加工食品の放射性物質試験検査

平成 27 年度茨城県食品衛生監視指導計画に沿って、県内事業者が製造した以下の加工食品 177 検体（飲用水 2, 牛乳 7, 乳児用食品 4, 一般食品 164）について放射性物質（セシウム 134 及びセシウム 137）の検査を実施したところ、一般食品 5 検体からセシウム 137, 1 検体からセシウム 134 及びセシウム 137 が検出されたが基準値未満であった。

(9) イノシシ肉の放射性物質試験検査

平成 27 年度イノシシ肉の放射性物質検査実施要領に沿って、県の「出荷・検査方針」に基づき捕獲・処理されたイノシシの肉 9 検体について放射性物質（セシウム 134 及びセシウム 137）の検査を実施したところ、3 検体からセシウム 137、6 検体からセシウム 134 及びセシウム 137 が検出されたが基準値未満であった。

(10) 食中毒・苦情・違反食品等の行政検査

保健所等に有症苦情や苦情の届け出のあった食品 1 検体について、以下のとおり原因究明のための検査を実施した。

冷凍食品 1 検体について、毒劇物（硝酸イオン、亜硝酸イオン、ヒ素、シアン化物イオン、コリンエステラーゼ阻害剤）の検査を実施したところ、全て不検出であった。

(11) 外部精度管理

財団法人食品薬品安全センター秦野研究所が行う平成 27 年度食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物検査（シロップ中の安息香酸の定量）、残留農薬検査（ほうれん草ペースト中のクロルピリホス及びマラチオンの定量）を実施したところ、結果は全て良好であった。

2 医薬品等試験検査の概況

平成 27 年度医薬品等試験検査実施状況は表 2 のとおりである。

表 2 平成 27 年度医薬品等試験検査実施結果

項目	検体数	項目数	件数
(1) 県内流通医薬品等試験検査	50	1	50
(2) 医薬品等一斉監視指導に係る試験検査	20	1	20
(3) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査	2	1	2
(4) 家庭用品試買試験検査			
メタノール、テトラクロエチレン、トリクロエチレン	9	3	27
トリフェニル錫化合物、トリブチル錫化合物	9	2	18
ホルムアルデヒド	132	1	132
(5) 無承認無許可医薬品試験検査			
ダイエット食品	25	8	200
強壮食品	25	7	175
(6) 危険ドラッグ買上検査	8	629	5,032
合計	280		5,656

(1) 県内流通医薬品等試験検査

平成 27 年度県内流通医薬品等試験検査実施要領に沿って、以下の医薬品等 50 検体について定量試験を実施した。結果は、薬局製剤 1 検体が不適合であった。

- ・日本薬局方医薬品
 

スピロノラクトン錠	10 検体
ロキソプロフェンナトリウム錠	10 検体
ピオグリタゾン塩酸塩錠	12 検体
フルボキサミンマレイン酸塩錠	15 検体
- ・薬局製剤(クロルフェニラミンマレイン酸塩含有製剤) 3 検体

(2) 医薬品等一斉監視指導に係る試験検査

平成 27 年度茨城県医薬品等一斉監視指導実施要領（第 3 後発医薬品品質確保対策）に沿って、オロパタジン塩酸塩錠 20 検体について溶出試験を実施した。結果は、全て適合であった。

(3) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査

平成 27 年度医療機器一斉監視指導実施要領に沿って、注射針 2 検体について外観試験を実施した。結果は、適合であった。

(4) 家庭用品試買試験検査

平成 27 年度家庭用品試買試験検査実施要領に沿って実施した。

家庭用エアゾル製品 9 検体について、メタノール、テトラクロロエチレン及びトリクロロエチレンの試験を実施したところ、全て基準値以下であった。

繊維製品、家庭用接着剤、家庭用ワックス等 9 検体について、トリフェニル錫及びトリブチル錫の試験を実施したところ、全て不検出であった。

繊維製品、つけまつげ用接着剤等 132 検体について、ホルムアルデヒドの試験を実施したところ全て基準値以下であった。

(5) 無承認無許可医薬品試験検査

平成 27 年度無承認無許可医薬品対策事業実施要領に沿って、ダイエットを目的とする製品 25 検体及び強壮作用を目的とする製品 25 検体について、以下の成分の試験を実施した。結果は、全て不検出であった。

- ・ダイエット成分：エフェドリン，ノルエフェドリン，シブトラミン，脱 N-ジメチルシブトラミン，オリスタット，フェンフルラミン，N-ニトロソフェンフルラミン，センノシド
- ・強壮成分：シルデナフィル，バルデナフィル，チオキナピペリフィル，タダラフィル，ヒドロキシホモシルデナフィル，アミノタダラフィル，クロロプレタダラフィル

(6) 危険ドラッグ買上検査

平成 27 年度危険ドラッグ買上検査実施要領に沿って、指定薬物の含有が疑われる商品 8 検体について、以下の 629 項目の試験を実施したところ、全て不検出であった。

[測定項目]

1,2-Butanediol, 1,3-Butanediol, GHB artifact, 1,4-Butanediol, Trimethadione, Methomyl artifact, Metolone, Phenethylamine, Valproic acid, N-Desmethylnmethiopropamine, Amphetamine, 2-Fluoroamphetamine, 3-Fluoroamphetamine, 他 616 成分

3 飲用水水質検査の概況

(1) 水道水中の放射性物質モニタリング

平成 27 年 2 月 27 日付け茨城県保健福祉部生活衛生課水道整備グループ事務連絡「平成 27 年度水道水中の放射性物質のモニタリングについて」に基づき、水道水 456 検体の放射性物質（セシウム 134 及びセシウム 137）の検査を実施したところ、全て不検出であった。実施状況は、表 3 のとおりである。

表 3 平成 27 年度水道水放射性物質モニタリング（H27.4～H28.3）実施状況

採水地点	水源	検体数	項目数	件数
日立市 森山浄水場（水道水・原水）	久慈川	24	2	48
日立市 十王浄水場（水道水・原水）	十王川	24	2	48
北茨城市 中郷浄水場（水道水・原水）	大北川	24	2	48
県南水道事業団				
龍ヶ崎市 若柴配水場（水道水）	西浦	50	2	100
取手市 戸頭配水場（水道水）	利根川	50	2	100
取手市 藤代配水場（水道水）	利根川	50	2	100
牛久市 牛久配水場（水道水）	利根川	50	2	100
利根町 利根配水場（水道水）	利根川	50	2	100
東海村 外宿浄水場（水道水）	久慈川	12	2	24
水戸市 楮川浄水場（水道水）	那珂川	12	2	24
鹿嶋市 鹿嶋市役所（水道水）	北浦	12	2	24
守谷市 守谷浄水場（水道水）	利根川	50	2	100
桜川市 岩瀬庁舎（水道水）	西浦	12	2	24
常陸太田市 瑞竜浄水場（原水）	地下水	12	2	24
常陸太田市 水府北部浄水場（浄水）	山田川	12	2	24
神栖市 若松緑地（水道水）	鱒川	12	2	24
合計		456		912

(2) その他の飲用水水質試験検査

保健所からの依頼により、飲用井戸水 3 検体について、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、亜硝酸態窒素、pH、色度、濁度、臭気の検査を実施したところ、全て基準値以下又は基準を満たしていた。